

DX時代をリードする高度介護人材の育成 -愛知から始まる高校福祉の新潮流-

現状と課題

- DX推進や科学的介護対応のため、福祉系高校の専門教育充実と産業界連携が課題である。
- これからの時代を切り拓く課題解決能力やコミュニケーション力を育む教育の充実が課題である。
- 各校で産業界との連携を進めているが、ネットワーク不足で持続的な体制構築に課題がある。



マイスター・ハイスクール・ビジョン

- 科学的裏付けに基づく介護(EBC)を実践するために必要な高度な介護スキルを育成する。
- 課題解決型学習(KOCHINO PBL)を通して地域の課題解決に挑戦し、DX時代に必要なリーダーシップや課題解決能力を養う。
- 拠点校の取組の成果を他校に還元し、福祉を学ぶ高校と産業界との新たな連携を創出する。

育成を目指す力

テクノロジーを活用する力
介護ロボットやICT機器を活用し、生産性向上と質の高いケアを実現する力を育成する。



他者と協調・協働する力

専門職が協働する介護現場を踏まえ、課題解決型学習を通じて協調・協働のコミュニケーションスキルやリーダーシップを育成する。



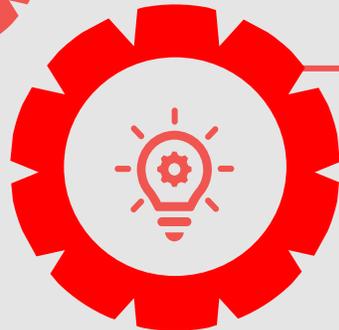
情報活用能力

介護データを分析し、科学的根拠に基づく最適なケアを提案する力を育成する。



課題解決能力

DX時代に求められる課題解決力を育成するため、課題解決型学習を実施。試行錯誤を通じてレジリエンスを高め、福祉・介護現場や地域課題の解決に挑む。



年度ごとの達成目標

R6

基盤の確立

- ・各事業の実践にあたっては、産業実務家教員やPBLアドバイザーとの連携体制を確立し、取組を進める。
- ・産学連携コーディネーターを中心に事業全体の基盤を確立する。
- ・ホームページやSNSを活用して事業の成果を発信する。また、公開授業の実施等により、取組を横展開する。

R7

実践・評価

- ・事業運営委員会や事業推進委員会からの評価やフィードバックにより、各事業を通じた持続的な成長を促進する。
- ・事業運営委員会において、本県におけるこれからの福祉・介護業界の展望を示す。
- ・事業の成果を明らかにし、報告書にまとめる。事業の成果を本格的に他校へ還元する。

R8

**新たな展開へ
《目指す姿》**

- ・県内外の福祉を学ぶ高校においては、産業界との新たな連携の創出や、既存の連携体制を強化する。
- ・事業運営委員会で示された本県におけるこれからの福祉・介護業界の展望に沿った教育活動を各校で展開する。
- ・拠点校においては、事業の成果を生かした取組を実施する。

DX時代をリードする高度介護人材の育成 -愛知から始まる高校福祉の新潮流-

科学的裏付けに基づく介護(EBC)の実践

01

介護×ICTの実践

-テクノロジーの善き使い手に-



1年生では最新のICT・IoT技術を学び、2年生では施設見学を通じてテクノロジー活用力を育成する。3年生の介護実習ではICTを実践的に活用し、介護計画の立案に生かす。



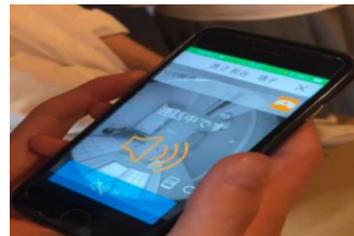
産業実務家教員による授業



音声入力による介護記録



先進事例を学ぶ施設見学



見守りシステムの体験

02

科学的介護の実践

-データを活用した介護過程の展開-



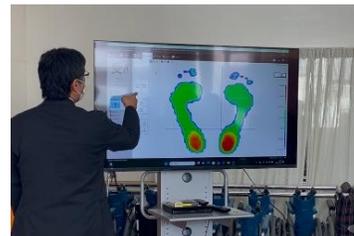
1年生では、特別養護老人ホームの施設長から、生活場面における科学的介護の実践を学ぶ。2年生では、3名の大学教員によるリレー講義を通じて介護データの分析を学び、情報活用能力の向上を図る。



産業実務家教員による授業



最新福祉機器の体験



大学教員のリレー講義



介護データの分析

03

認知症ケア最前線

-科学的アプローチで症状改善-



認知症グループホームの施設長から回想法やユマニチュードなど非薬物療法を学び、認知症の人を尊重したケアを習得する。2年生の介護実習では、学んだ知識と技術を実践し、理解を深める。



産業実務家教員による授業



認知症サポーター養成講座



当事者理解を進めるワーク



介護実習におけるケア実践

-One step forward-

介護DXの学びを現場で活かせる環境を一層整備し、実習施設との連携を深めながら、生徒が実践的なスキルを効果的に習得できる仕組みを充実させる。また、産業実務家教員の授業では、思考力・判断力・表現力をより高められるよう、ワークの内容を深化させ、主体的な学びを促進する。

DX時代をリードする高度介護人材の育成 -愛知から始まる高校福祉の新潮流-

課題解決型学習(KOCHINO PBL)の推進

01

「つながり」を実感できる地域づくり
-共に生きる力を育む-



02

福祉・介護の魅力発信
-THINKER to DOER-



03

元気で笑顔あふれるまちに
-高校生考案の健康づくり-



地域とのつながりが希薄化する中、生徒主体で認知症カフェを運営し、地域と交流を深める。また、教育機関と連携し、「共に生きる力」を育む福祉教育や認知症のVR体験プログラムを開発し、小中学校で出前授業を行う。



地域会議への参加



認知症カフェの企画・運営

約38万人の介護人材不足が予測される中、地域の福祉企業や福祉を学ぶ高校と連携し、福祉・介護の魅力を伝える活動を実践。ネガティブイメージを払拭し、「THINKER to DOER」の精神で行動する力を育む。



コラボ動画作成・発信



家族介護教室の動画作成

江南市の高齢化に対応し、フレイル予防や認知症予防の体操や活動を考案し、介護予防と健康づくりを実践する。さらに、活動の成果をDVDなどにまとめ、地域へ広げていく。



PBLアドバイザーの指導



プログラムの検討



大学生とのディスカッション



他校とのオンライン交流



介護職員へのインタビュー



FUKUSHI FESでの発表



フレイル予防体操の実践



認知症予防体操の実践

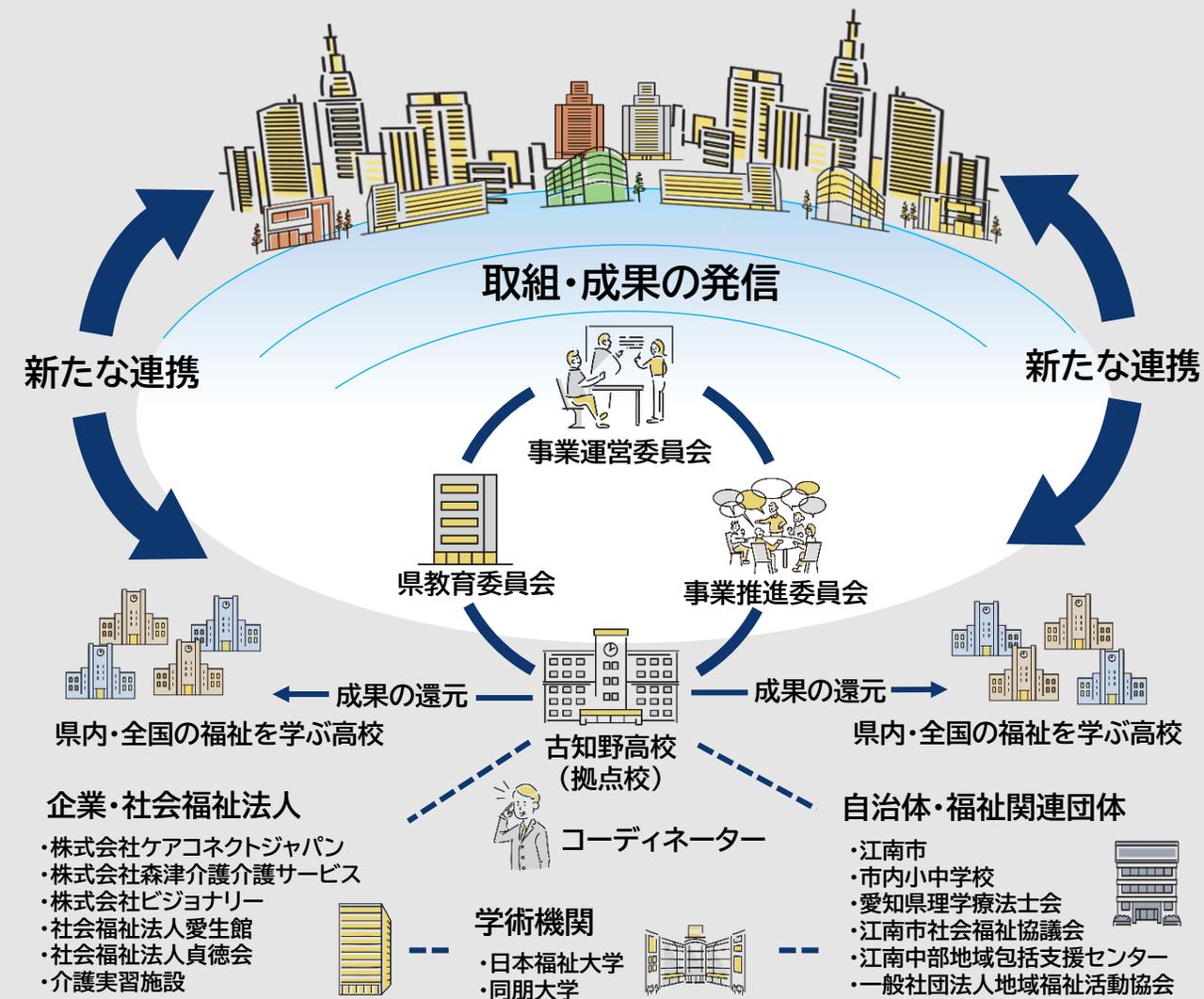
-One step forward-

生徒の非認知能力を可視化し、協調性や課題解決能力の成長を実感できるようにする。また、開発したVR体験プログラムや福祉教育プログラムの冊子、健康づくり体操のDVDなどを県内外の高校と共有し、活用を進めながら福祉教育の発展につなげる。

DX時代をリードする高度介護人材の育成 -愛知から始まる高校福祉の新潮流-

事業展開イメージ

各機関の役割



事業運営委員会【意思決定機関】

事業の進捗管理、評価及び検証を行う。
本県における福祉・介護業界が目指すべき姿や求められる福祉・介護人材像についての展望を検討する。また、産業界との連携体制などについて、構想を具体化する。

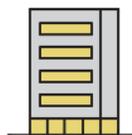
愛知県福祉局・高齢福祉課長、愛知県教育委員会高等学校教育課・課長補佐、愛知県介護福祉士会・会長、愛知県老人福祉施設協議会・大会企画委員長、愛知県社会福祉協議会・福祉人材センター所長、日本福祉大学・准教授、同朋大学・准教授、社会福祉法人サン・ビジョン・副施設マネジャー、愛知県立古知野高等学校・校長、産学連携コーディネーター



事業推進委員会【事業実施機関】

産業実務家教員や地域の福祉機関・団体、拠点校教員などが実務者間で事業実施や改善に向けた具体的な方策を検討する。また、産業界等との連携について協議し、事業推進の在り方を検討・協議する。

奈良東病院グループ・ICT教育推進スーパーバイザー、株式会社森津介護サービス・ホーム長、社会福祉法人貞徳会ガーデンハウス今伊勢・施設長、同朋大学・准教授、江南市社会福祉協議会・福祉活動専門員、江南中部地域包括支援センター・センター長、江南市介護保険課介護予防グループ・主査、愛知県立古知野高等学校・校長及び福祉科教諭、産学連携コーディネーター



県教育委員会

事業の管理機関。事務局機能を有し、拠点校を支援する。事業運営委員会と連携し、これからの本県における福祉・介護業界に求められる資質能力を育成する産業教育の在り方について検討する。



古知野高校

本事業の拠点校。MHSビジョンに基づき産業実務家教員・PBLアドバイザーとの協働により2分野6事業を展開する。
県内外の福祉を学ぶ高校へ成果を還元し、ノウハウを共有する。